

協進推商札

高校生11人現場体験

市教委とインターシッブ



生徒ら聞く説明

札幌商工会議所の札幌インターシッブ推進協議会(高 育委員会との連携による高校生インターシッブ)は26日、札幌市教

育委員会との連携による高校生インターシッブを実施した。札幌藻岩高校、札幌清田高校2年生11人がグループに分かれ市内の工事現場5カ所を体験した。商工会議所から協力要請を受けた札幌建設業協会(岩田 圭剛会長)が、会員企業に生徒の受け入れを紹

介し、職場体験の現場を確保した。

札幌では、行政・学校・産業界が連携して同協議会を設立し、学生のキャリア教育を支援する各種事業を進めている。事業項目は職業体験と職場体験などで、建設業のインターシッブは初となる。

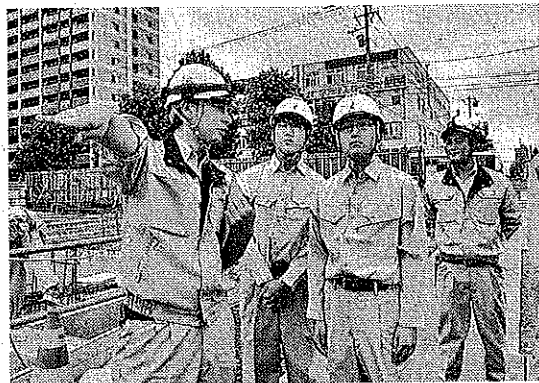
岩田地崎建設の「北海道日立本社事務所新築」工事には、札幌藻岩高校の2人の生徒が体験入社。本場で会社概要などを説明した後、現場を案内し、工事の目的、工程や安全管

理などを担当者が紹介した。樋本真久所長は「現場を一度見ることは大きな経験。今後の参考にしたい」とアドバイスし、生徒らは緊張しつつ真剣に説明を聞き入った。

このほか中山組のクリーンリバーフィネス札幌ミッドステージ新築工事、丸彦渡辺建設の道道京極定山溪線定山溪849番地先法面改良工事、板谷土建の手稲山口小学校耐震工事改修、杉原建設の北幹線耐震化工事の現場でも実施した。

商 11人が現場の魅力体験

札 高校生・建設業インターンシップ



札幌商工会議所は26日、将来の職業として建設業を希望する高校生を対象に、インターンシップを実施した。札幌市内の建設会社5社に高校生

グループ計11人が入り、建設現場を体験。生徒たちは複雑な工程や専門用語に戸惑い気味だったが、現場職員らは「何より達成感のある仕事」と背中を押し

た。

札幌が建設業でのインターンシップを初めて企画し、札幌建設業協会が協力を快諾。普通課程の市現場の仕組みを聞く高校生

立瀬若、清田高2年生が各校で2-3人のグループをつくり、それぞれ5社に体験入社した。

岩田地崎建設は市内中心部で企業の本社ビルを新築中。中山組も近くで分譲マンションを新築し、丸彦渡辺建設は郊外で道路改良、板谷土建は小学校の耐震化、杉原建設は配水幹線の耐震化を施工している。

各社とも、本社で会社概要や建設業の役割などを説明してから現場を案内した。現場職員が担当、工事の目的や工法、複雑な工程や安全管理の難しさを生徒たちに分かりやすく説明し、測量実習も用意。

岩田地崎建設では、生徒2人が緊張と聞き慣れない専門用語に戸惑っていたが、榎本真久所長が「私も最初は何も分からなかった」とリラックスさせ、「昔は見て覚えろだったが今は違う。何でも疑問を持ち質問する若手が伸びる」と言葉を掛けた。

藻岩高の石黒雄貴さんは「工業大学に進学し、

建設業で設計に携わりたい」と目を輝かせ、嶋崎克隆さんは「建築に興味があり、現場の中を見てみたかった」と話していた。

同社にことし入社した若手社員は「竣工のときに達成感を感じるはず。今から楽しみ」と建設業の魅力を伝えた。

札商が高校生インターンシップ 高校生11人が職場体験 岩田地崎建設等の現場訪れ



会長)が会員企業に生徒の受け入れを照会し確保した現場で、市内の札幌藻岩高校と札幌清田高校に通う二年生十一人が職場体験した。岩田地崎建設(札幌、岩田圭剛社長)では、札幌藻岩高校から大学進学を希望する男子高校生の二年生二人が訪れた。本社でのレクチャーには同社総務部の岡崎幸一次長、柴崎真広報課長代理の二人が対応した。

はじめに、岡崎次長があいさつし、「建設業に興味をもつ機会になればと思う。学んで吸収してほしい」と生徒を激励した。このあと、社内の各部署を案内して回り、会議室でプロジェクターを使ってゼネコンの社会的使命や技術者の必要な資格、地域の安全・安心を守る建設業の役割について説明を行った。写真

質疑では建築の仕事に就きたいという学生が、建築の資格

について質問。担当者は一級建築施工管理技士の資格等について、「難易度も上がってきている。学生時代に勉強しておくことが大通り覚えてからの方が設計の幅が広がると思う」とアドバイスした。

レクチャー終了後、同社で支給した作業服と安全靴に身を包んだ学生を連れ、「北海道日立本社事務所新築」工場の現場に移動し研修が行われた。基礎部の躯体工事が終わった現地では、作業所の職員が新入社員仕様の研修資料を使って、上屋が立ち上がるまでの工程を分かりやすく解説。測量機器を使っての実習も行われ、高校生も現場体験を通じ建設業の仕事の肌で感じている様子だった。

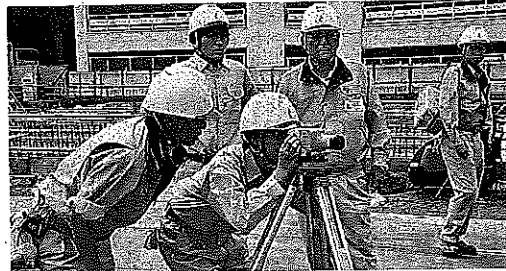
施設の規模はS造四階、延べ二千四百七十八平方メートル。新築の現場は工程どおり順調に進捗し、来年の一月末までに工事を終える予定。同年二月五日の引き渡しとなる。

朝採り十ぶらす

■札商が建設現場で職業体験

人手不足が続く建設業界に若者を呼び込もうと、札幌商工会議所(札商)は26日、札幌市内の普通科高校に通う2年生を対象に、同市内の建設現場で職場体験を行った。生徒11人がマンションや道路工事などの現場を見学し、仕事の一端に触れた。

札商の職場体験は2004年度から行われている。本年度は初めて札幌建設業協会と連携し、5社が受け入れに応じた。岩田地崎建設(札幌)が建設中のビル新築現場には2人が参加し、作業の流れを学んだり、測量機で地盤の



高さを確認したりした(写真)。

建築士を目指しているという札幌藻岩高の石黒雄貴さん(17)は「簡単な作業でもコツをつかむまで大変だと感じた。将来建設業界に進んだら、しっかり経験を積みたい」と話した。